

変形性膝関節症

H5. 2. 25

阿部 光延

症例報告

症 例：TN 56歳 女 主婦（豆腐店）

初 診：平成4年11月16日

主 訴：左膝関節の痛み

現病歴：5～6年前より左膝が痛み（思いあたる原因はない）、整形外科を受診しレントゲン検査で変形性の膝関節と言われ「体重をあと10kg減らすと症状は無くなるだろうといわれる」、呑み薬と湿布薬をもらっていた。年に1～2度強い痛みが現れ、その都度整形外科で呑み薬と湿布薬をもらい過ごしていた。

今回は、立ち上がろうとしたときに左膝の内側に痛みが現れ、夕方来院する。

現在、正座痛、立ち上がり痛、歩行痛、階段昇降時痛、動作開始痛自発痛がある。（図1）膝折れ現象、嵌頓症状はなく、他関節痛、朝の手指のこわばりはない。

スポーツは行っていない。アルコールは飲まない。その他一般状態は良好である。

既往歴：特記すべきものなし。

家族歴：特記すべきものなし。

診察所見：身長143cm、体重58kg、発赤は認められない。腫脹は認められない。熱感陽性、膝蓋骨圧迫テスト陽性。外反テストで内側に痛みの誘発がある。ステインマン・テスト内旋・外旋共に陽性で内側に痛みの誘発がある。屈曲痛陽性。内反変形は陽性で2横指。外反変形陰性。大腿周径は左39.8cm、右39.5cmで筋萎縮陰性。膝蓋跳動陰性。マックマレー・テスト、圧アプラー、引アプラーテストはすべて陰性。四頭筋力は徒手で左右差は認められない。圧痛は左内隙一点に限極されている。（図2）

要 約：年齢、性別、肥満、主たる原因が不明、立ち上がり痛、動作開始痛、屈曲痛、圧痛部位などから変形性膝関節症と推測される。鍼灸治療は適応と考えられ予後も比較的良好と思われる。

対 応：膝の関節が炎症を起こしています、日頃膝の関節は体を支えています、疲れて膝に負担がかかり炎症が起こったのです。鍼灸治療は血液の循環を促進させ炎症を鎮静させる事により症状を楽にさせます。治療としては安静にすることが第一ですから、膝まずく、しゃが

む、走る、正座は、しばらくやめて下さい。階段の昇降は一步一步進める様心掛けて下さい。

治療・経過：鍼灸治療は膝関節の血液循環の促進と炎症の改善と愁訴の緩解を目的に以下の様に行った。

第1回 治療体位を仰臥位とし、膝窩部に高さ10cmの枕を入れる。

治療は患側の圧痛部位である内隙を取穴し、ステンレス鍼1寸3分—2号（40mm—18号）を用いて1cm刺入10分置鍼（やや下方に向けて斜刺）抜鍼後、知熱灸を3壮施灸した。（図2）

第2回（3日目）歩行時痛はやや軽減してきたと思われるが、仕事後椅子などに腰掛けているとズキン・ズキンと疼くような感じがしてきた。圧痛点は患側の内隙一点である。

第3回（5日目）立ち上がり痛、動作開始痛が軽減してきた、ズキン・ズキンと疼くような感じも短時間になってきている。

第5回（10日目）調子がよいので知人と旅行に出掛けかなり多くの階段を登った、途中で引き換えそうと思ったが無理をして登ったせいか帰ってからズキン・ズキンと疼く感じが強く感じられた、なんとなく歩行時がぎこちない感じがするが痛いとは思わない。大腿周径40cm内隙の下に圧痛が認められたため取穴し、ステンレス鍼1寸3分—2号（40mm—18号）を用いて1cm刺入10分置鍼（やや下方に向けて斜刺）抜鍼後、知熱灸を3壮施灸した。（図3）

第7回（15日目）ズキン・ズキンと疼く感じが短時間に減り、正座も湯船の中なら少し出来るようになった、ステインマン・テスト陽性だが痛みはごくわずかである。

第10回（26日目）ステインマン・テスト陰性、膝蓋骨圧迫テスト陰性、外反テスト陰性、大腿周径は39.8cm、正座痛は湯船では感じないが外ではまだ少し感じる、本人の希望で治療は一時中止とすることとした。

考 察：本症例は要約で述べたように、変形性膝関節症と推測して治療に当たったが、類症疾患としては、慢性関節リウマチ、神経病性関節症、特発性骨壊死などが挙げられる。まず慢性関節リウマチでは多発性で手関節に多く発病し、腫脹、疼痛、朝のこわばりを訴えるといわれている。本症例は、他関節の腫脹、疼痛、朝のこわばりもなく、また、夜間痛、安静時痛などが無いことなどから除外できる。

神経病性関節症では、疼痛が欠除もしくは軽度で関節は高度の腫脹が認められるなどの特徴をもっているとされる、本症例は、疼痛を主訴

として来院していることからこれも除外できる。

特発性骨壊死は変形性膝関節症に比べればまれな疾患であり、症状が突発的に激しい疼痛で発症するのが特徴で、夜間安静時に痛みを訴えるものもある、変形性膝関節症の疼痛が主に運動痛である、このことから除外可能と思われる。

本症例は、5～6年前よりしばしば膝の痛みを訴えており、典型的な変形性膝関節症であったとおもわれる。腫脹がなく圧痛も一点のみで比較的短期間の治療で症状の緩解をみたことは、本症例に対する、鍼灸治療はほぼ妥当であつたものとおもわれる。

経穴の位置

内隙：内側関節裂隙部の中央

参考文献

- 1) 腰野 富久：「膝診察マニュアル」P166～P173 医歯薬出版 1988
- 2) 出端 昭男：「問診・診察ハンドブック」P59～P85医道の日本
- 3) 浜田 良機：変形性膝関節症「ベッドサイドの整形外科」P268 医歯薬出版 1982

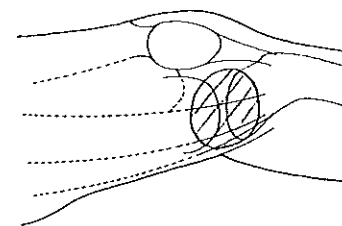


図1 疼痛部位

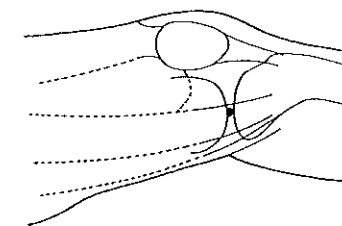


図2 圧痛点及び治療点

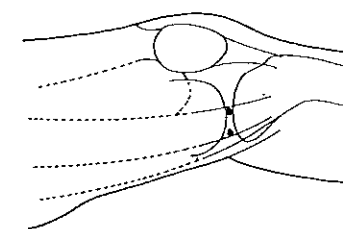


図3 治療点

膝関節痛

H4年11月16日

| | | | | | |
|---------|-------------|----|--------|---------|-------|
| 1 身長 | 153 cm | 12 | 左 内反試験 | 内 — 外 — | 18 圧痛 |
| 2 体重 | 55 kg | | 左 外反試験 | 内 + 外 — | |
| 3 発赤 | 左 — 右 — | 右 | 右 内反試験 | 内 — 外 — | |
| 4 腫脹 | 左 — 右 — | | 右 外反試験 | 内 — 外 — | |
| 5 熱感 | 左 + 右 — | 13 | 左 ST内旋 | 内 + 外 — | |
| 6 内反変形 | 左 2 右 — | | 左 ST外旋 | 内 + 外 — | |
| 7 外反変形 | 左 — 右 — | 右 | 右 ST内旋 | 内 — 外 — | |
| 8 筋萎縮 | 左 — 右 — | | 右 ST外旋 | 内 — 外 — | |
| 10 膝蓋跳動 | 左 — 右 — | 15 | 屈曲痛 | 左 + 右 — | |
| 11 膝蓋圧迫 | 左 + 右 — | 17 | 四頭筋力 | 左 — 右 — | |
| 9 大腿周径 | 14 マックマレー — | 16 | アプレー — | | |

(医道の日本社)